

地域の特性を活かした集住性の提案

実際に逗子市を歩いてみて感じたこと、問題点

山手地区

古くからの地区構成の中にミニ開発住宅



屋敷地区

屋敷の残る空間が更新されていってしまう

海岸地区

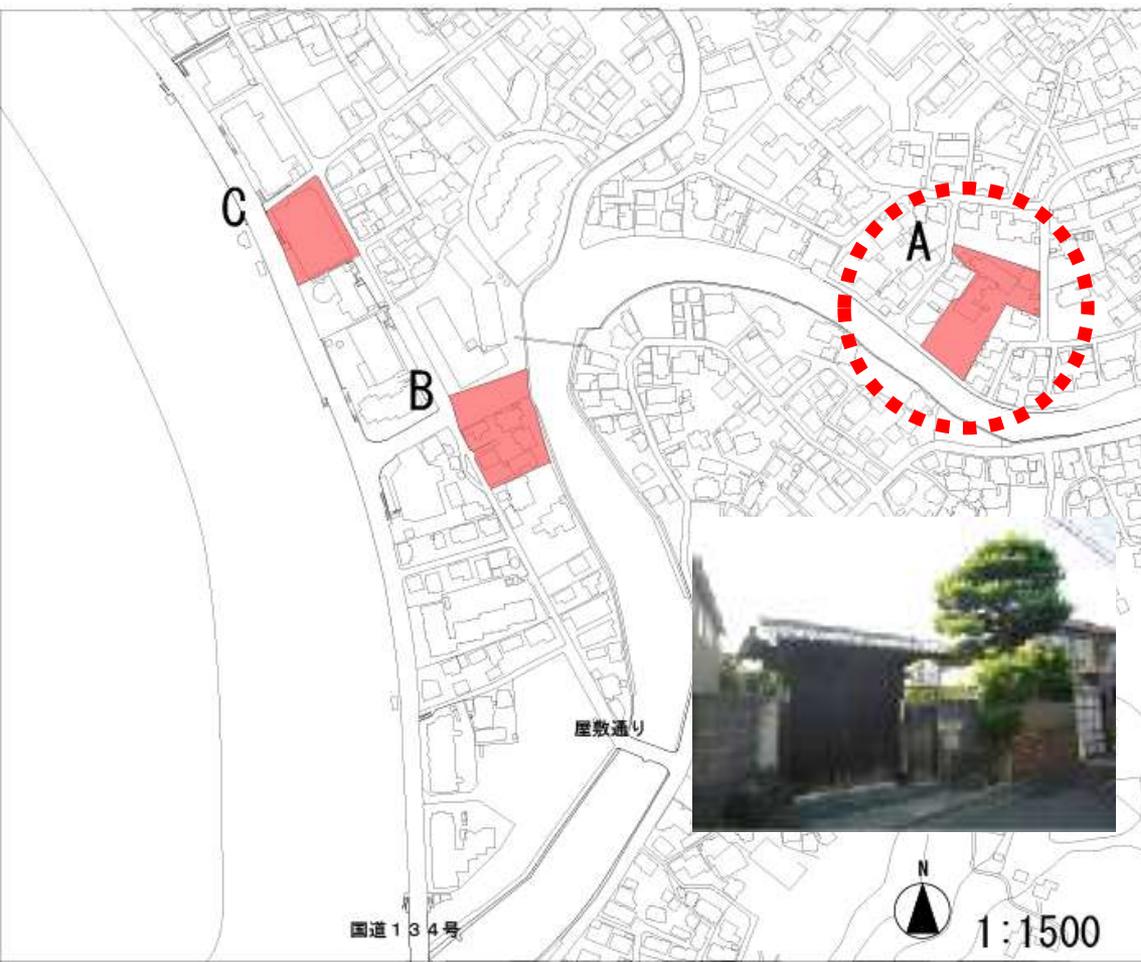
海沿い敷地が敷地の外との関係をもったものになっていない

大規模なマンションによる景観の乱れ

各エリアの中で特徴的だと感じた敷地

A地区 田超川沿いの屋敷地区

『屋敷跡コーポラティブハウス』



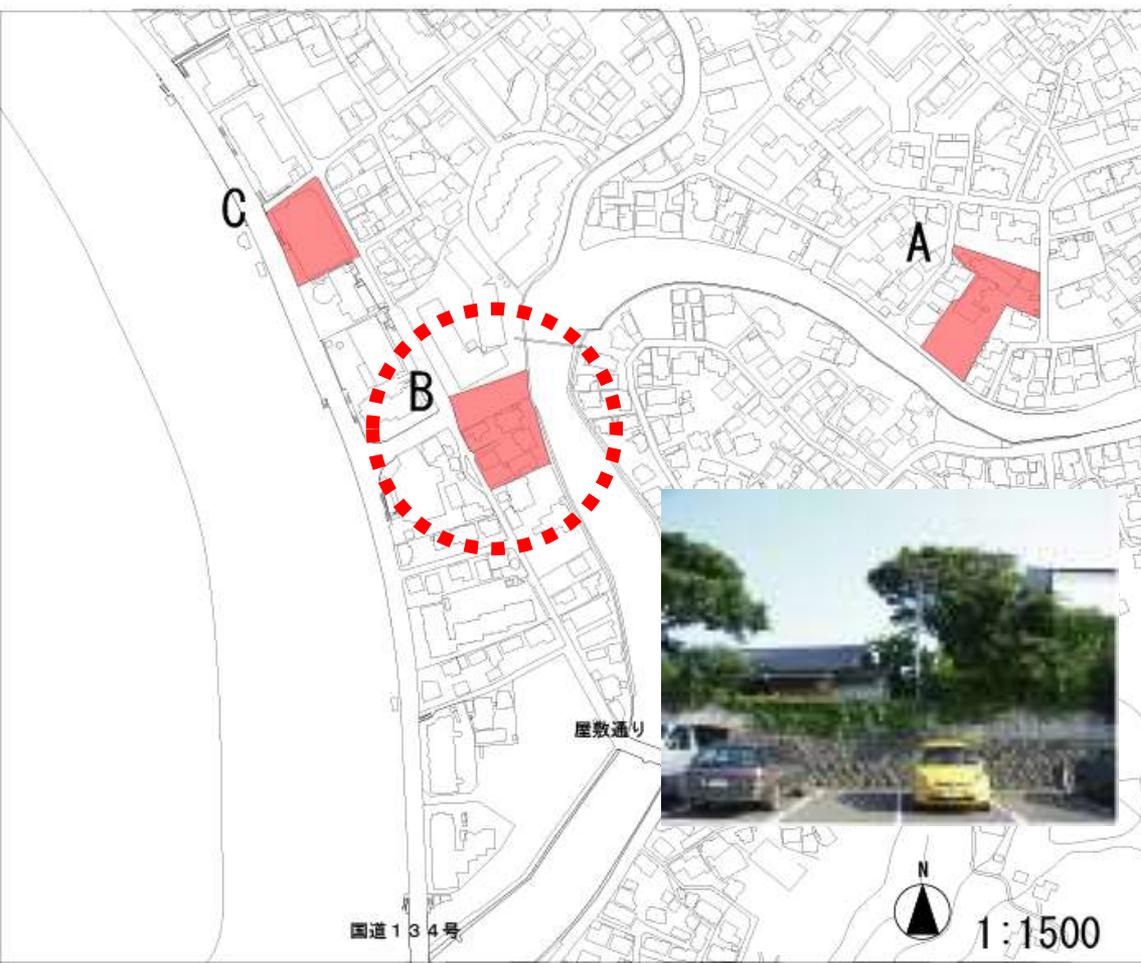
別荘や保養地など、古くからの大規模な敷地が多く残っており、逗子市の中でも住環境が良く、歴史的財産が多い地域であるが、近年敷地の細分化に起因する開発で、歴史的景観も少しずつ失われつつある。

私たちが提案するのは、その敷地規模や豊かな住環境を生かした戸建てコーポラティブハウスである。敷地の細分化を防ぎ逗子らしさを未来へ残すとともに、逗子に住む楽しさを再発見したい。

各エリアの中で特徴的だと感じた敷地

B地区 屋敷通り・田越川に接する地区

『屋敷通りの集住』



美しい逗子の海と、市民に親しまれる田越川をつなぐオープンスペースを軸にした集合住宅を提案する。屋敷の特徴を継承し筒自然に囲まれた逗子の暮らしのひとつのモデルを示し、逗子らしい住まい方が周辺へ広がっていくことを見据える。



各エリアの中で特徴的だと感じた敷地

C地区 屋敷通り・逗子海岸に接する地区

『裏通りからメイン通りへ』



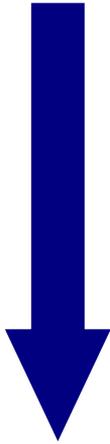
敷地は国道134号線と屋敷通りにはさまれた場所に位置し、国道に向かって建てられている建物は、屋敷通りに背を向けているため、裏道となっている。このことが通過交通の流入や歩行者にとって過ごしにくいといった問題を引き起こしている。

裏道かした屋敷通りを集住環境の計画を通して、地元住民の方や歩行者の方にとって過ごしやすいメインの通りとなるような提案をする。

OYASHIKI CORP.

屋敷街の現状

相続



税金

手入れの難しさ(人手不足)

細かい敷地に分け、戸建群を作り分譲

豊かな緑

石垣の苔

大木
木陰



失われてしまう

屋敷



逗子特有の風景

都市の財産

分譲住宅



狭い

庭がない

逗子以外にもある風景

一世帯で大きな屋敷を所有することは難しい

何世帯が集まって、所有できないだろうか??

みんなですしずつ所有して、みんなが全体を使える

同じ庭を住人皆で使う

屋敷の、木や塀を活用して豊かな暮らしをする

集まって住む楽しさ

敷地

屋敷跡地

≡二開発が始まっている

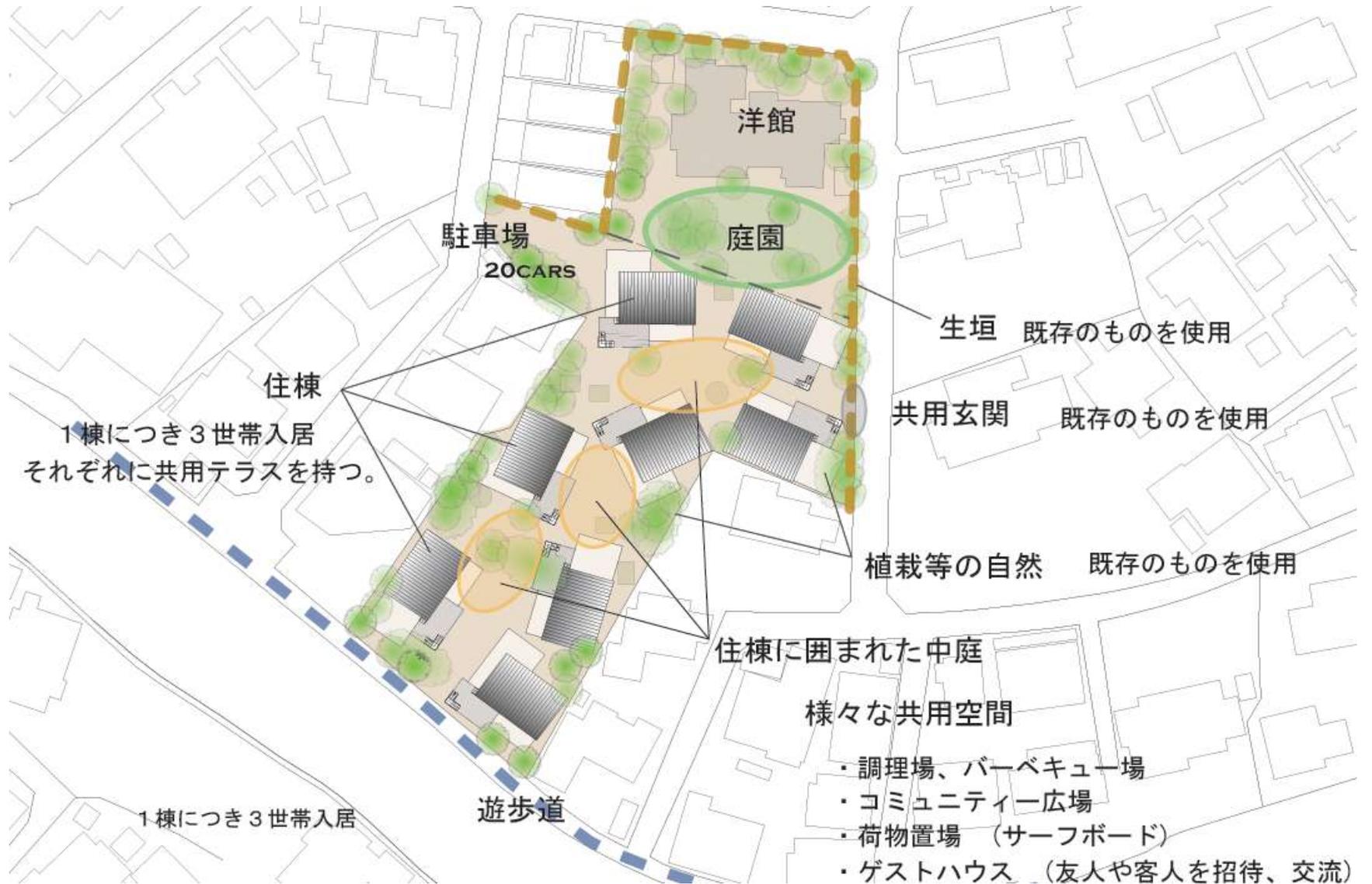
A

隣も屋敷が残っている

門構え、植栽が残っている

残っている門構え





模型写真



全体図



駐車場から



中庭から



屋敷通りの集合住宅

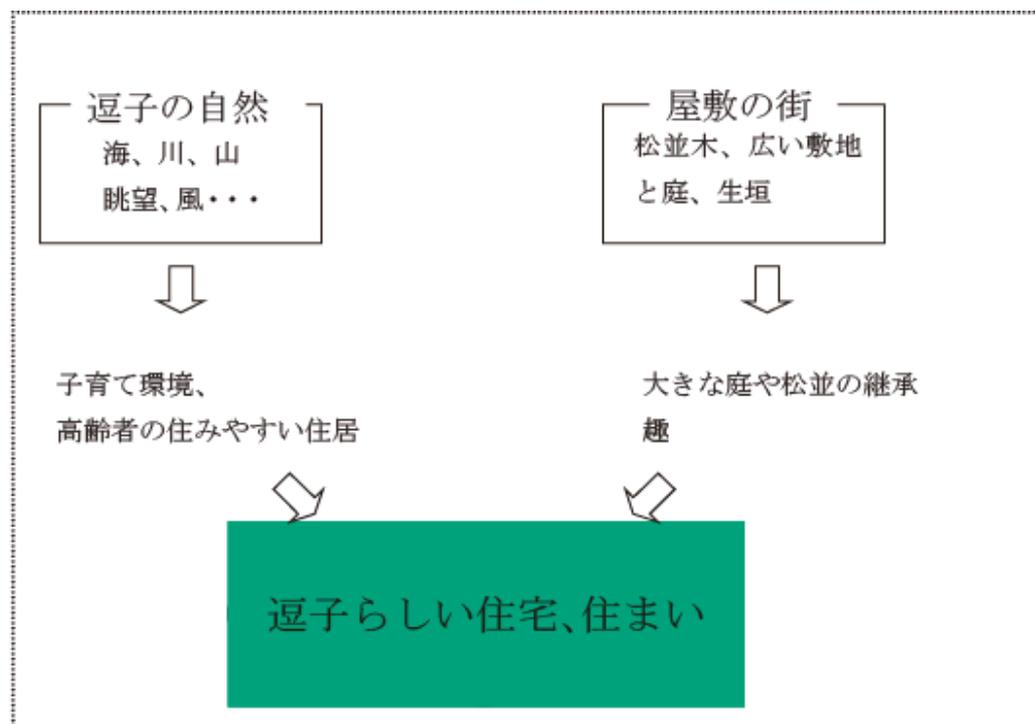
CONCEPT

美しい逗子の海と、市民に親しまれる田越川をつなぐオープンスペースを軸にした集合住宅を提案する。

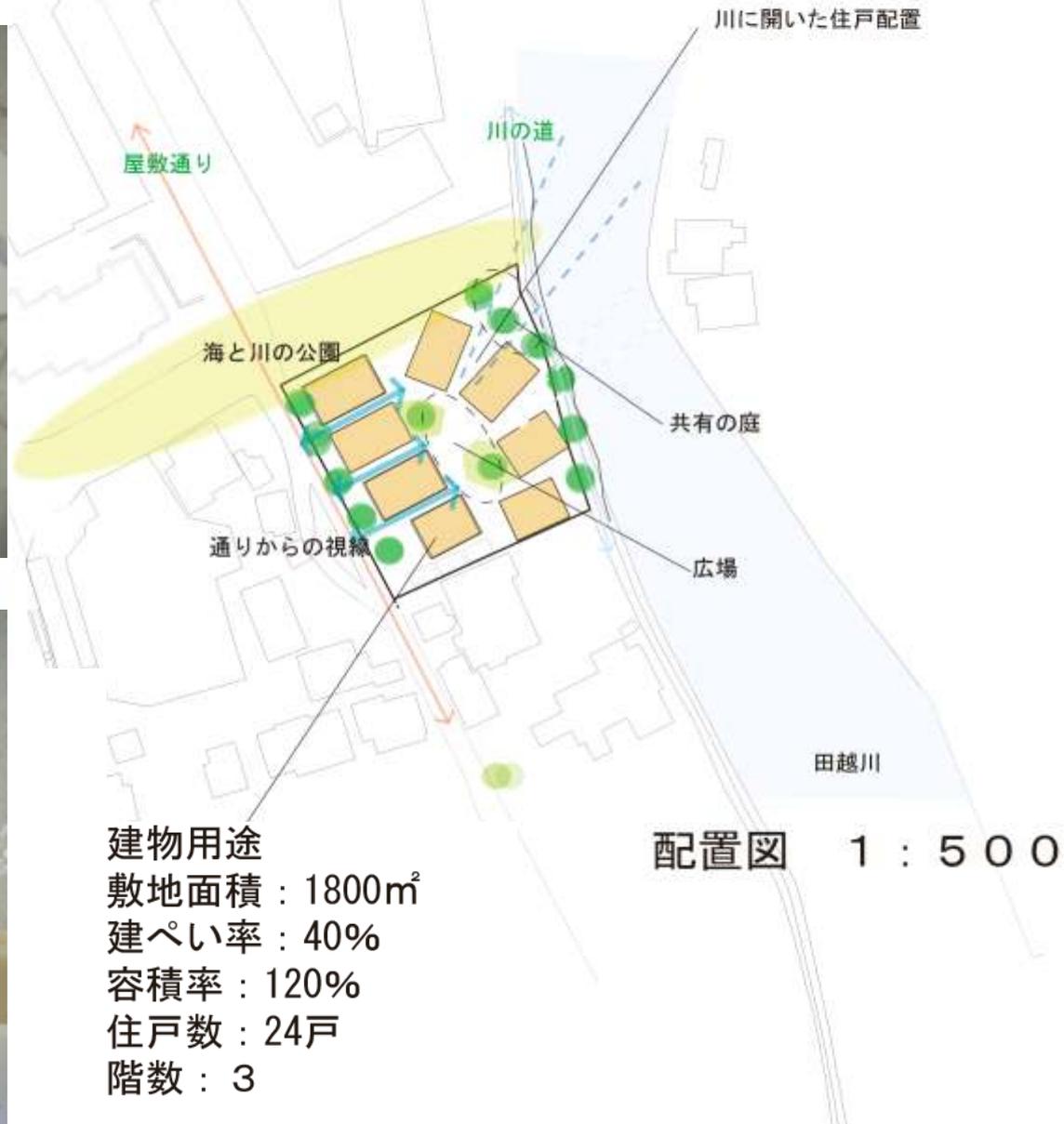
屋敷の特徴を継承しつつ自然に囲まれた逗子の暮らしのひとつのモデルを示し、逗子らしい住まい方が周辺へ広がっていくことを見据える。



写真 逗子湾



敷地と提案



イメージスケッチ



第3班 逗子会館の集住空間への建替え計画



・この地区の問題点

ひとつの敷地より活動や人々のくらしが外に現れない

・マンションは屋敷通り空間に対して瀬を向けてしまっている

・そのため通過交通や歩行者にとって利用しにくいといった問題を生み出している

集住計画を通して「やしき通り」が住民、歩行者にとってメインの通りとなるための提案

海岸線沿いの山並み、家並みの調和をつくり出すヴォリューム空間

国道という車空間に対する商業を利用した表構え

屋敷通り沿いのヒューマンスケールのヴォリューム空間

公共的に使えるポケットパークから集合住宅を介してより私的な区間へ

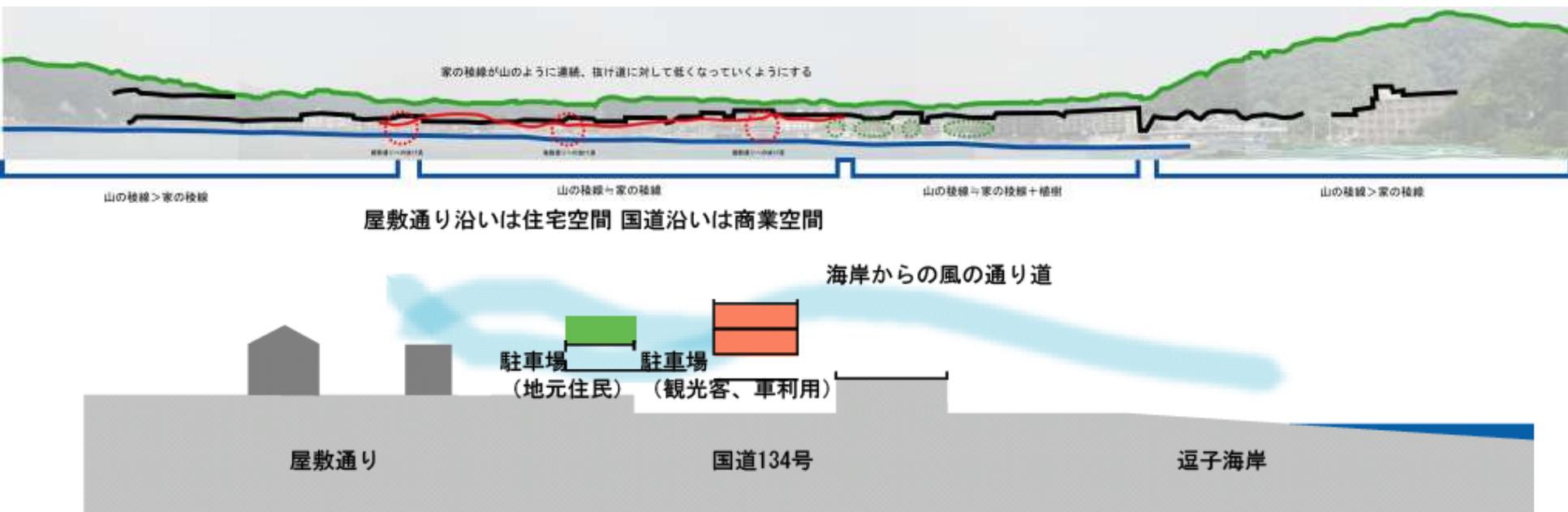


集合住宅の断面計画

海岸からの風を感じることをのけるような海側と屋敷通り側の断面計画

様々な人が来ることが出来るオープンスペース空間

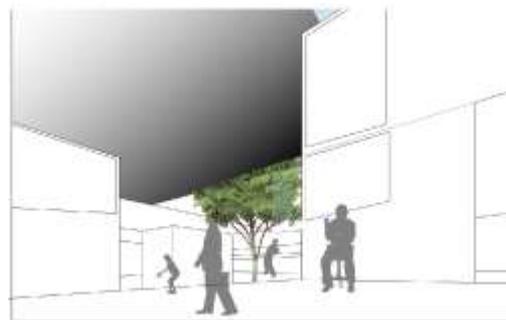
駐車場空間は地元住民、観光客等の人たちで区分され地下空間に計画



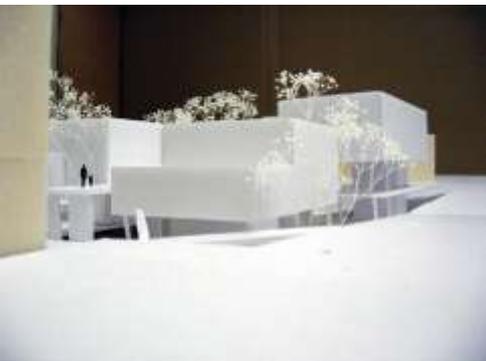
各敷地空間への提案計画



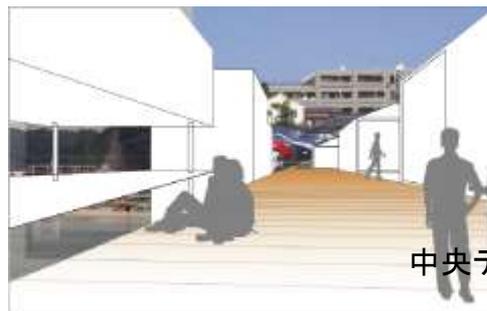
シンボルロードと屋敷空間
の交差部から見る



各住宅空間から見る



シンボルロード(手前側道空間)
に対してボリュームを軽減する



中央デッキが地元住民の交流空間